

地球環境基金 便り

- 巻頭インタビュー:さかなクン.....2
- 特集: ESD、未来への指針.....4
- 助成団体レポート:世田谷みんなのエネルギー.....10
- サポーターインタビュー:黒田武志さん.....12
- 地球環境基金のサポーター.....14
- 若手プロジェクトリーダーの育成支援プログラム.....15



特集

ESD、未来への指針

「持続可能な開発のための教育の10年」から
託された課題



ご寄付のお願い

皆さまの思いが国内外の
NGO・NPOの環境保全活動を支えています。



不要になったCD、DVD、ゲームソフトを集めてブックオフへ。



VISA、Masterカードをお持ちの方はオンラインで。

地球環境基金では、このほか金融機関からのお振込み、全国のファミリーマートに設置されているFamiポートから等、さまざまな寄付方法をご用意しております。
詳細は、<http://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/donate.html>

「地球環境基金企業協働プロジェクト」がスタートしました!

平成27年度から、企業等からのご寄付を直接助成に充てる仕組みとして、「地球環境基金企業協働プロジェクト」がスタート。特定の活動分野に対して支援したいという寄付者の想いを反映させたプログラムです。

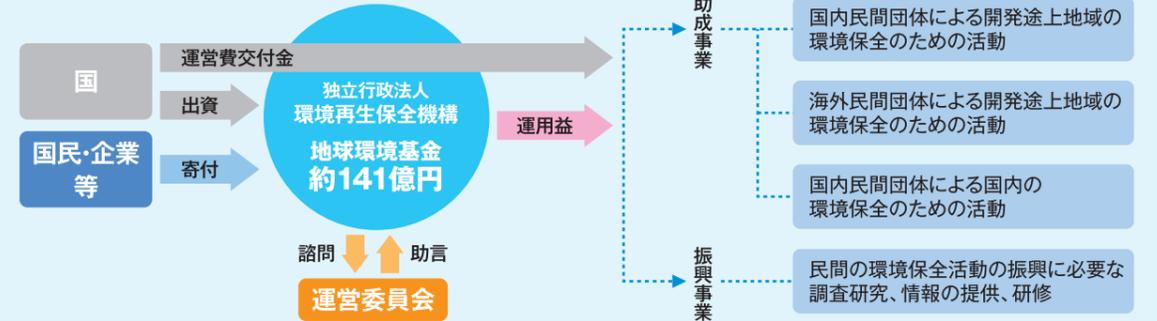


詳細は、<http://www.erca.go.jp/jfge/kigyuu/gaiyou.html>



地球環境基金とは

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動へ支援を行っています。



表紙写真



「わたしたちはESDの主人公! We play a main role in ESD!」

2014年11月に開催されたESDユネスコ世界会議では、環境保全や貧困など地球規模の課題に取り組む人材を育てるため、ESDの取り組み強化を各国に求める「あいち・なごや宣言」が採択されました。その後の閉会全体会合のステージで、「ESDあいち・なごや子ども会議」の小中学生たちが、「戦争をしないで」「どの国の人も教育が受けられる環境をつくって」と各国の参加者に呼びかけ、「わたしたちはESDの主人公!」と書かれた横断幕を掲げると、会場は大きな拍手に包まれました。

イベント情報

10月21日に開催した「環境NGO・NPOとCSR担当者の交流会」(主催:環境再生保全機構・環境パートナーシップ会議)では、企業とNGO・NPOとの連携協働事例について、企業2社、NGO・NPO2団体による情報提供のもと、これからの連携・協働事業のあり方についてディスカッションを行いました。



11月4日、文化学園大学学園祭で行われた「2014年度第10回造形学部プレゼンフォーラム デザインコンテスト」の表彰式で、「環境再生保全機構賞」を地球環境基金から授与しました。



Twitter



地球環境基金ではツイッターで情報発信を行っています。
アカウント名:地球環境基金
アカウントID: @ERCA_kikin
URL: http://twitter.com/ERCA_kikin



編集後記

今号の特集は「ESD、未来への指針」です。持続可能な社会の担い手を育てる教育について、さまざまな角度から取材しました。個別の分野だけでなく、環境、経済、社会など幅広い側面から総合的に取り組むことの重要性をお届けできれば幸いです。

セネガルの魚を守る 日本の漁の技術

ギョギョ!! さかなクンです。毎日食べているお魚や水産物の産地を気にされることはギョギョいますか? たとえばマタコはモロッコやモーリタニア、セネガルなど西アフリカからギョギョ輸入されています。ところがセネガルでは、タコの獲り過ぎで漁獲量が大幅減少! そこで日本の支援でタコを増やす取り組みが始まりました。セネガルの土で作ったタコ壺を海に沈めて産卵場所とし、産卵時期は禁漁にされています!

魚からの感動をパワーに、 地球のいのちの応援団として

友だちの描いた迫力満点のタコの絵に魅かれ、お魚好きになったというさかなクン。魚屋さんの店先で、ランドセルを背負ったままタコの絵を描いていた少年が、今ではお魚の伝道師として全国を駆け回り大忙し。イキイキとした絵とおしゃべりで子どもたちに魚の魅力を伝える二方、抜群の観察力で幻の魚クニマスの生息発見にも役買うなど、学術的な分野でも活躍しています。
「五感を通して体験が大事」というさかなクンに、魚を通して自然保護や持続可能な社会について伺いました。

さかなクン

るような社会を実現すること。頭で理解するだけでなく、実際に行動していくことが必要です。そのために毎日のくらしでできることを紹介しましょう。

一つは「お風呂に入った後、すぐに栓を抜かないこと」。温かいお湯を流すと、川や沿岸などの水温が上がり魚の産卵期やくらしに影響が出てしまうのです。多摩川のアユは、水温上昇により小型化が進んでいるといわれています。二つ目はマグロやサケばかりを食べるのではなく、「いろいろなお魚を食べること」。旬のお魚、地元で獲れたお魚がいいですね!! そして、感謝の気持ちを忘れずに、毎日おいしく食べられることに「おいしいな」「うれしいな」「ありがたいな」という喜びを感じていただきたいですね!!

「二魚一会」で広がる感動の輪

自然の感動をギョ感(五感)で吸収していきたいでギョギョいますね!! 「自然を守ろう」と言われても、自然のすばらしさを体験したことがないと、自然を大切にしようという気持ちがあわいてきません。まず外に出て、自分の目で見て、香りを嗅いだり、触ったり、食べたりして、「すギョい!!」と実感!! 五感で学べば、おもしろいし、もっと知りたくなります。それがまた新たな発想を生み、将来の行動へとつながっていくと思います。

お魚好きの人はよく、「二魚一会」と言います。個性豊かなお魚の姿や生態のおもしろさを味わい、知るたび、お魚好きでいてよかった! と心から思います。また全国の漁師さんや専門家の先生などから学ばせていただく漁法や食文化などの知識は、いつも驚きや発見の連続でワクワクします。お魚との出会いから人の輪や感動の輪が広がっていきます。お魚からいただく感動がパワーの源でギョギョいます!!



S a k a n a K u n

さかなクン
東京海洋大学客員准教授。中学3年生のときにカブトガニのふ化に成功。2006年東京海洋大学客員准教授に就任。2010年田沢湖で絶滅したと思われたクニマスの再発見に貢献。テレビ出演、執筆などを精力的に行うかわら、主に子どもたちを対象に、魚や海への興味を引き出しながら漁業・漁食や環境問題を考えるきっかけを提案する講演活動を行っている。2014年は「ESDオフィシャルサポーター」の一員として活躍。このほか、地球いきもの応援団生物多様性リーダー(環境省)、お魚大使(農林水産省)など幅広く活躍。

魚の視点で考えるESD

この活動の成果を見るため、2013年4月セネガルを訪問しました。JICAの漁業の専門家の先生や地元の漁師さんと共に海の中のタコ壺の様子を映像で拝見すると、お母さんタコが壺の中に産んだ卵をしっかりと守っていました。大成功です! セネガルではなんと!! マングローブの根に付くカキが獲れます。天然ガキが減ってしまったので日本のカキの養殖技術を伝えています。養殖場では、垂下式養殖でカキが大きく育っていて、地元の皆さんは、歌って踊って大喜び! 見ている僕まで嬉しくなりました。
セネガルはお札にも魚が描かれるほどの漁業大国で、日本の協力で作られた魚市場もありました。色とりどりの民族衣装を着た人たちがいっぱい! お祭りのような賑やかさ! 日本とは文化も自然も違いますが、そこで日本の伝統的な漁の技術が受け継がれ、お魚を獲り続ける取り組みが広がっているのでギョギョいます!

2014年は、11月に開催された「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のオフィシャルサポーターにギョ任命いただき、全国各地で開かれたイベントで講演したり、子どもたちが実践したESDの発表を審査したりしました。ESDとは何か? をお魚の視点で考えると、海と私たちのつながりや自然の生態系を知って、天然のお魚を将来もずっと獲り続けて食べられ

クン



友だちの描いたタコの絵にギョー天して、魚屋さんに直行しました



タコ壺漁はタコが壺の中に入る習性を利用した漁。セネガルでは地元の土で焼いたタコ壺を海に沈めてタコの産卵場所に!



セネガルの魚市場は大勢の人と、ずらりと並ぶお魚で活気にあふれていました

ESD、未来への指針

「持続可能な開発のための教育の10年」から託された課題

持続可能な社会を目指して2005年からスタートした「国連ESDの10年」。その最終年となった2014年11月、愛知県名古屋市と岡山県岡山市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されました。閣僚級の政府代表から市民団体まで150か国・地域の約3,000人が会議に参加し10年間の成果と課題を共有するとともに、2015年以降もESDを推進していくための新たな枠組みとして「ESDに関するグローバルアクションプログラム(GAP)」が発表されました。「国連ESDの10年」の成果と、持続可能な社会を実現するために私たちが何をすべきか、立教大学ESD研究所所長の阿部治先生に伺いました。



各国の閣僚級らによるハイレベル円卓会議では、ESDを実践する上での課題や求められる行動などが話し合われた

とに集約されることになったのです。国連ESDの10年がスタートした当初、各国のESDへの関心は決して高いものではありませんでした。途上国は「持続可能な社会」自体に関心がなく、ユネスコのような国際機関でさえ大きな関心を持っていなかったのです。それが、昨年11月に開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」では、世界150か国・地域から参加者が約3,000人にのぼりました。また、内戦や貧困という厳しい状況下にある途上国にとっても、持続可能な社会を実現する上で、教育が何よりも大切だという声が多数聞かれるようになりしました。日本が提案したESDの必要性が、10年を経てようやく世界に認知され広まってきたのです。これは、国連ESDの10年が果たした国際的な成果だと言えるでしょう。

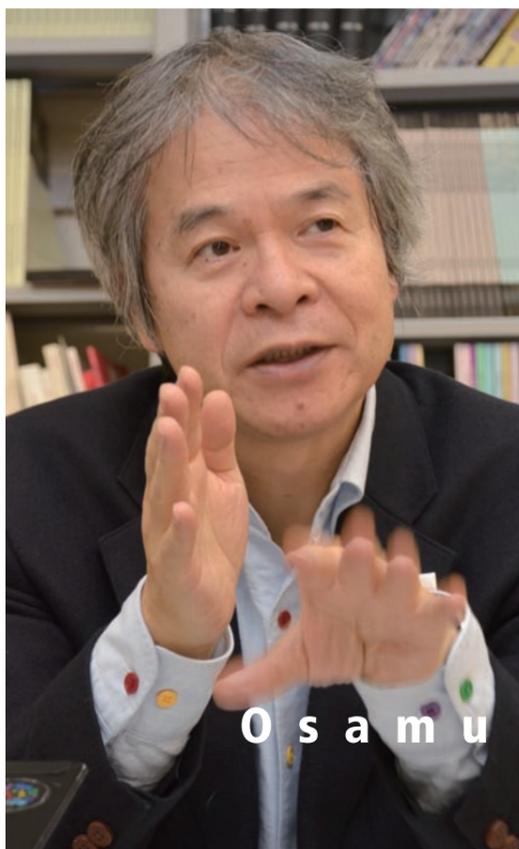
立教大学社会学部教授、立教大学ESD研究所所長 阿部 治さん

1955年生。筑波大学専任講師、埼玉大学助教授を経て2002年より現職。日本の環境教育のパイオニアであり「国連ESDの10年」の提唱者の一人。現在、日本環境教育学会会長、認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)代表理事、ESD世界の祭典推進フォーラム代表理事、日本環境教育フォーラム専務理事、IUCN-CECメンバーなど。

総括インタビュー

ESDの必要性が世界に広まった10年
はじめに、日本がESDの推進に対して果たした大きな役割について話しておきたいと思います。
まず、持続可能な開発(SD)の定義を国際的に広めることとなった「環境と開発に関する世界委員会」は、日

本の提案によって実現したものです。そして「国連ESDの10年」も、日本のNGOが政府に呼びかけて両者が協働で世界に提案して始まりました。その結果、持続可能な社会を実現するために必要とされてきた環境教育、開発教育、人権教育平和教育など、さまざまな地球規模の課題に取り組む教育がESDという言葉のも



Osamu Abe

ESDの10年からの未来へ

多様な主体が協働で進めたESDの10年

- この10年の日本における成果は大きく5つに整理できます。
1. 多様なステークホルダーの参加
 2. ESD推進のための法制度の整備
 3. 学校教育におけるESDの推進
 4. 地域づくりとしてのESD
 5. 企業の参画

最大の成果は、持続可能な社会に関わる多様なステークホルダーが人づくりという視点で初めて同じテーブルにいたことでしょうか。市民のイニシアティブでESDを推進するために立ち上げられたESD-Jが03年に全国約40カ所で開催したワークショップには、環境・人権・開発といったテーマや、行政・NGO・企業といったセクターを超えてさまざまな主体が集まりました。そして、市民と国が協働で国内外に向けたESDの普及や政策提言などに取り組んできました。学校教育においては、学習指導要領などにESDの概念が盛り込まれたことで、これまで持続可能な社会に関わる活動を行ってきたNGOな

Concept of ESD ESDの概念



ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) 環境・貧困・人権・平和・開発といった地球規模の課題を自らの問題として捉え、自分にできることを考え実践し、課題解決に向けた行動を生み出すことで、持続可能な社会を創造していくことを目指す教育・活動。

History of ESD ESDの10年

- 2002 ヨハネスブルグサミットで「ESDの10年」が議長提案に盛り込まれる
- 2002 国連総会で、2005年からの10年間を「ESDの10年」とする決議案採択
- 2005 ユネスコによる「ESDの10年国際実施計画2005-2014」決定
- 2005 「国連ESDの10年」関係省庁連絡会議設置
- 2006 我が国における「国連ESDの10年」実施計画決定
- 2007 「国連ESDの10年」円卓会議設置
- 2009 ドイツにて「ESD世界会議(中間年会議)」開催
- 2011 我が国における「国連ESDの10年」実施計画改訂
- 2012 「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」開催
- 2014 日本にて「ESDに関するユネスコ世界会議」開催(開催地:名古屋市及び岡山市)

E d u c a t i o n f o r S u s t a i n a b l e D e v e l o p m e n t

どが学校教育の現場に参加しやすくなりました。ESDを合い言葉にした新たな地域づくりも始まりました。地域の資源を見える化して地域活性化を図り、それを人づくりにつなげる取り組みが各地で始まったのです。**一人ひとりが主体的に関わるのが大切**
ESDを推進する基盤は整ってききましたが、残された課題も数多くあります。まずは持続可能な社会への取り組みを文部科学省や環境省だけでなく、すべての省庁が民間とともに進めていくための仕組みづくりが必要です。政府・企業・市民がタッグを組んで、それぞれのセクターが持つヒト、モノ、カネなどの資源と知恵を出し合い、今後のESD推進のための計画と組織をつくり上げていかなければなりません。そのためには、目指す未来のビジョンを、グローバルな視点とローカルな視点とを重ね合わせて具体的に描いていく必要があります。

日本は急速に進む少子高齢化や里山の崩壊、震災からの復興など、「課題先進国」と呼べるほど、多くの課題を抱えています。これらを解決し、地域を再生していくために、ESDによる人づくりは大きな力となっていくでしょう。そして、こうした課題を乗り越えたとき、同じような課題を抱える北東アジアやヨーロッパに日本ノウハウを提供していくことは、大きな国際貢献となります。
ESDという言葉は何か難しく聞こえるかもしれませんが、ESDで扱うテーマ自体は新しいものではないのです。ESDという旗こそ上げていないものの、同じ視点を持った取り組みはたくさんあります。水俣病で壊された自然と地域人間関係を取り戻すための「地元学」、霞ヶ浦の水質保全から始まった「アサザ基金」などのように、さまざまな主体が関わり合っており、明日をつくる取り組みは、すべてESDです。
誰かがやってくれると傍観者でいるのではなく、一人ひとりが主体的に未来に関わっていくことが求められています。解答のない問題を解決していくために、他者と関わることを面倒がらず、地域や自然を学び、人との関係をつくり上げていくことが、持続可能な未来への第1歩なのです。

事例
2

一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム
—葛西臨海たんけん隊「感じる公園ワークショップ」—

■プロジェクト概要
葛西臨海公園・葛西海浜公園をおもな活動の場として、公園の自然や施設を活用したさまざまなプログラムを提供する参加体験型環境学習プログラム「葛西臨海たんけん隊」を主催。
<http://www.kasairinkai.com/tankentai/index.html>

五感を活用して
自然を学ぶ

「木からの恵み。聴覚障がい者4名を含む13名が集まり、2班に分かれて園内に設けられた「果実」「材」「葉」のブースを回って植物を体感しました。袋に手を入れ手さわりで木の実を選んだり、樹皮のにおいや味を試したり。最後に樹木の葉で煎れたお茶を飲みながら体験のまとめと感想を共有しました。

「葛西臨海たんけん隊」は、葛西臨海・環境教育フォーラムが主催する体験型環境学習プログラムです。フォーラムのインタープリターによって、葛西臨海公園・海浜公園（東京都江戸川区）の自然や施設を活用したさまざまなプログラムが行われています。その経験とネットワークを活かして2012年からスタートしたのが「感じる公園ワークショップ」。健常者も障がい者も一緒に参加できるユニークなプログラムです。五感をフル活用して自然を学ぶだけでなく、障がい者と健常者が互いに気づきを得ながらつながらる学びの場です。

障がいの有無を問わない
感じるワークショップ



「プログラムと一緒に行動することで進行や小道具のアイデアも広がります」と協働の成果を語る実験植物園研究員の堤千絵さん



異なる樹種で作った木琴で木を体感。「種類によって色も違うし音も違うね!」



プログラムは班ごとに手話通訳がつき、フリップも活用している

フォーラムの定款には「ESDの推進」がありません。防災や環境といった分野で分断することなく幅広い視野で活動したいとのこと。「今後とも、すべての人の学びの入り口になるESDのプログラムを提供していきます」と熱く語ってくださいました。



視覚障がいのある学生もインタープリターとして参加。「自分と異なる障がいを持つ人から学ぶことも多い」とのこと

連携と人材育成で
プログラムの普及拡大を

「葛西臨海公園は防災公園でもあるため、自然体験だけでなく災害弱者向けプログラムも提供してきたのですが、障がい者の方から健常者と接点を持ちたい、自然体験もしたいという声が出ました。それがこのワークショップの始まりです」とフォーラム理事の宮嶋隆行さん。現在は、夢の島熱帯植物館、アクアマリンふくしま、国立科学博物館筑波実験植物園など、外部施設と協働でプログラムを実施したり、学生や障がい者のインターンを受け入れるなど、ノウハウの共有や普及、人材育成にも力を注いでいます。

事例
1

一般社団法人 大学コンソーシアム石川
—北陸におけるESD普及のための仕組みづくり—

■プロジェクト概要
石川県内の大学、短期大学、高等専門学校などの高等教育機関が連携して交流や情報発信などを行い、高等教育や地域社会の学術・文化・産業の発展を目指すコンソーシアム組織。
<http://www.ucon-i.jp/index.html>

北陸3県をESDで結ぶ
教育連携事業

「ESDの普及に取組んでいこう」と考えたのです」と振り返ります。地域の教育委員会、ユネスコ協会と密接に連携しながら学校でのESDプログラムの開発などに取組んだことで、北陸地域のユネスコスクールは8年で87校になり、学校現場におけるESDの優良事例も数多く生まれました。

石川県内の高等教育機関が集まって教育交流や情報発信、地域連携などを行っている「大学コンソーシアム石川」は、平成20年度から北陸地域でのESDの普及に取組んできました。北陸3県の大学を中心に、ユネスコ協会、自治体、教育委員会その他教育機関、地域で教育や環境に携わる市民など約20名による「ESD推進連絡協議会」を設置し、さまざまなESDプログラムを開発するとともにESD研究会やシンポジウムなどを開催。協議会を取りまとめる金沢大学鈴木克徳教授は「活動を始めた当初、文部科学省はESD推進にあたってユネスコスクールの活用を推奨していましたが、北陸地域にユネスコスクールはありませんでした。そこで、まずは学校におけるESDの普及に取り組んでいこう」と考えたのです」と振り返ります。地域の教育委員会、ユネスコ協会と密接に連携しながら学校でのESDプログラムの開発などに取組んだことで、北陸地域のユネスコスクールは8年で87校になり、学校現場におけるESDの優良事例も数多く生まれました。

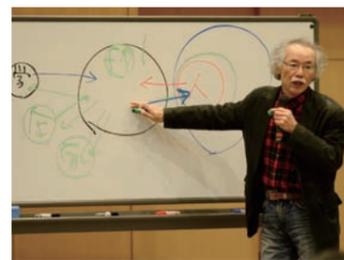
先生ごのESD推進で
ユネスコスクールが普及



ESD世界会議併催イベント 校長先生サミットでの北陸の事例紹介



田んぼで泥んこ遊びをする子どもたち



富山の動物園「富山ファミリーパーク」でのシンポジウムの様子

これまでの成果を踏まえ、2014年9月には多様な主体が参加する「北陸ESD推進コンソーシアム」が設立されました。石川、富山、福井の各県内のユニットをゆるやかにつなぐネットワーク組織をつくり、ESDコーディネーターを配置して各ユニット間の連携や協働を推進しながら、活動の輪をさらに広げていきたいとのことでした。

地域の動物園や博物館などと連携してESDのプログラムを実施する仕組みづくりや、地域の大学とNGOとが協働して生物多様性をテーマとした自然体験活動などを展開。金沢大学キャンパス内の里山で幼児の自然体験プログラムを実施したのはその一例です。「虫や蛇がいるような自然環境に子どもや先生は戸惑っていましたが、活動を重ねるうちに自分で遊びを発見するようになり、しだいに自然への理解が深まってきました」と鈴木教授。里山での体験を子どもが親に話すことで、家族の意識にも変化が生まれました。

新たなコンソーシアムで
北陸のESDを
さらに元気に



これまでの取り組みを、学校の現場や他地域でも活かせる資料にまとめ、WEB等を通じて公開する予定

Voice 04

生物多様性に
ESDの視点を加え
愛知目標を達成したい

国連生物多様性の10年
市民ネットワーク

<http://jcnundb.org/>

私たちは2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」で掲げた「愛知目標」の達成を市民主導で進めるネットワークです。

2014年10月に韓国で開かれた「生物多様性条約COP12」には、私たちのネットワークから85名の関係者が参加し、半数以上は20~30代の若者でした。これ



COP12では北東アジアの若者たちとの交流も深まった



琵琶湖の「魚のゆりかご水田協議会」では幅広い視点で生物の多様性を守っている

は、COP12に向けて、各地で勉強会を開き、次代を担う若者たちに生物多様性の重要性をアピールしてきたことによる成果です。

サイドイベントでは生物多様性と第一次産業や文化との関わりについて発表しました。たとえば、琵琶湖では水質の改善だけでは魚が増えませんでした。魚道で湖と田んぼをつなぎ魚の産卵場を確保するとニゴロブナが復活し、鮎寿司文化の保存にもつながりました。

生物多様性の推進にも、「自ら学び課題解決できる人を育てる」ESDの考え方は重要です。2020年の愛知目標達成に向け、ESDの視点を大切に、頑張っていきたいと思います。

(代表 坂田 昌子さん)

Voice 05

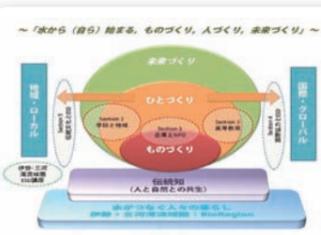
行政区を越えた「流域」で
地域の資源や課題を
共有し、解決を目指す

中部ESD拠点協議会

<http://chubu-esd.net/>

国連大学が認めたESDの地域の推進拠点RCE*は世界に127カ所あり、うち6カ所が日本にあります。中部ESD拠点協議会は東海・中部地域のRCEで、教育機関・NPO・行政機関・企業など約80団体が加盟しています。

世界会議までの3年間、私たちは東海・中部地域を「伊勢湾と三河湾に注ぎ込む



ESD推進中部モデル。「水がなくなると暮らし」をテーマにESDを進めていく



答志島では、流下ゴミ解決のためゴミ拾いや上流の森林整備を行っている

12河川の流域」と捉え、さまざまな活動を展開してきました。その一つ、「伊勢・三河湾流域圏ESD講座」では、3年間で100回の講座を開き、各流域が持つ資源と課題を明らかにしました。

たとえば、三重県答志島では伊勢湾流域から流れてくるゴミが問題になっているため、ゴミ拾い活動や上流域の住民との対話による解決を模索してきました。世界会議ではこれらの事例発表やESD推進のための「流域圏ESDモデル(中部モデル)」の提言を行い、ポスト「ESDの10年」を考えました。

今後は講座で抽出した100の事例を、学校教育や地域のESD推進に活用したいと思います。

(事務局 影浦 順子さん)

Voice 03

ESDの実践内容を
自己評価するツールで
取り組みを深めたい

(特非) 開発教育協会

<http://www.dear.or.jp/>

私たちは、地球上のあらゆる格差・環境・貧困などの問題を解決するために、NGOや教育機関、民間団体などとともに開発教育やESDの普及、政策提言などを進めてきました。

世界会議では「ESD政策への市民参加に関する提言」を配布、「あいち・なごや宣言」に「市民の参加」を盛り込むことができたほか、「ESD・開発教育実践者のためのふりかえりツールキット」を頒布しました。これは、ESDの実践が持続可能な社会に役立っているかどうかを自己評価するツールです。



ブースでは開発した教材とともに開発教育の紹介も行った

併催イベントではセミナー「マイノリティの視点に立ったESD」を実施、参加者から「自分の関わる問題がESDに直結していると実感した」と共感の声が上がりました。ESDの視点によって、それぞれの地域に開発をめぐる問題があることに気づき、解決のための取り組みに人々が関心を持つきっかけになりました。この変化を今後の活動の推進につなげていきたいと思えます。

(事務局次長 西 あいさん)



自己評価用ワークシートとCD

地球環境基金の助成は、地域で世界で、未来をつむぐ活動を支援しています。日本でESDを推進するために中心となって活動してきたESD-Jをはじめ、地域と世界を結び活動、開発教育、生物多様性保全など、多様な活動を行ってきた助成団体に、これまでの成果や今後の展望を伺いました。

人をつなぎ、地域を結ぶ ESDのこれから

t a i n a b l e

Voice 01

コーディネーター研修で
ESDによる社会変革を
さらに進めていきたい

(特非)「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

<http://www.esd-j.org/>

ESD-Jは市民の力でESDを進めるネットワーク組織です。NGO・教育関連機関・自治体・企業など多様な主体がつながり、ESDを推進するための政策提言をはじめ、国内外のESDの事例収集や研修など、ESDの普及啓発に取り組んできました。この10年で、全国のESDの実践とビジョンを政府と共有できたことは一つの



11月のESD世界会議では、公式サイドイベントとして、「日本のESD推進における市民イニシアティブ-市民社会と企業セクターのパートナーシップ」を発表



ESDコーディネーターを養成する実践セミナー風景

大きな成果だと思えます。

11月の世界会議のサイドイベントでは、全国の多様な主体と議論して作った提言書「地域が牽引するこれからのESD」を発表し、その内容は、世界会議の公式イベントにおける政府のスピーチでも紹介されました。

ESDの10年を未来につなげていくために2012年度から始めた「ESDコーディネーター研修」は、公民館や市民活動センターなどにいる地域のコーディネーターにESDの視点を共有し広げていくことをねらいとしたものです。地域の多様な主体が連携・協働することによって、ESDによる社会変革をさらに進めていくことができると願っています。

(事務局長 村上 千里さん)

Voice 02

ツールの開発や
ワークショップを通じて
ESDの輪を広げる

(特非) えひめグローバルネットワーク

<http://www.egn.or.jp/>

私たちは愛媛の人と世界の人々がつながり、地球規模の課題に取り組む拠点づくりを目指しています。放置自転車をモザンビークに送り武器と交換するプロジェクトの支援のほか、「環境省四国EPO」の運営事業を通じて多様な組織とともにESDに取り組んできました。

11月の世界会議では「環境省ユニバ



ESDの文字や木や生き物の刺繍を集めて1枚のタペストリーに



活動のさらなる広がりを目指して、参加者に「ESD風呂敷」が配られた

ESD大会」の成果発表を行うサブイベントを主催。岡山の会場と外部拠点をスカイプでつなぎ、学生から社会人まで約100名が参加しました。モザンビークで作ったESDの刺繍を買い取り日本でタペストリーに仕上げる「ESDリレー刺繍タペストリー」の展示や、学生たちがデザインした「ESD風呂敷」を配布。参加者からは「NPOに興味を持った」「国際協力のために英語を勉強したい」といった声も上がり、未来への1ステップになったと嬉しく思っています。

今後も、タペストリーや風呂敷を学校の教材やポストカードに活用したり、事務所に新設した研修室を使ってESDを推進していきたいと思えます。

(事務局長補佐 高山 莉菜さん)

楽しくできる省エネのワークショップを展開

「TVの音量を変えたり、モニターの輝度を変えると消費電力はどう変わるかな？」

「LEDの省エネ効果は絶大なね。さすがノーベル賞！」

「実際に測るといろいろな発見があるね」

参加者のにぎやかな声が聞こえてくる。ここは下北沢駅から徒歩5分緑に囲まれたカトリック世田谷教会の敷地内にある集会所。第2回「エネルギーシフト未来工房」が開かれた。

本日のテーマは、「家電製品をことごとん実験」。ドライヤーやトースター、電子レンジ、ホットプレート、扇風機、こたつなど、参加者が持ち寄った家電製品の消費電力を、ワットアワーメーターを使って実際に測り、起動時と使用時の消費量の違いや、使



こたつと電気カーベットの消費電力の違いをチェック。データを集めて、「省エネカルテ」とする予定だ

用方法によって消費量がどう違うのかなどを比較検討した。表示される数値が事前の予想と異なるとその原因をみんなでディスカッション。カタログのスベックではわからない省エネのコツを発見したり、それぞれの家電製品の時間経過とともに変化する消費電力を計測した。

実験終了後の結論は「見える化」の大切さ。実際の電力使用量を毎日の生活の中で意識することで、省エネ行動にはずみがつくはず。「電力チェッカーやワットアワーメーターを市民に貸し出してエコ診断をしては？」などという意見も出た。

ミッションは地域の「快適エネルギー」コンシエルジュ

「省エネカルテ」とする予定だ

市民協同発電所スタート

このワークショップを主催するの



分電盤にセンサーを設置することで電流の変化がすぐにモニターに表示されるタイプの製品をチェック

(左から)メンバーの大島崇さん、井上大輔さん、山木きょう子さん、後藤絹さん、浅輪剛博さん。毎週定例会を開き、まちづくりも含めてメンバーで議論している。



は、NPO法人 世田谷みんなのエネルギー。もともと世田谷発の持続可能なまちづくりを目指して勉強会やまち歩きなどの交流会を展開していたが、東日本大震災をきっかけに、カトリック世田谷教会の前庭で復興支



2013年6月22日に行われた、「カリタス下北沢ソーラー市民協同発電所」点灯式のひとコマ

援のマルシェと手作りソーラーパネルの実験をしていたところ、関心をもった信徒さんを中心に市民協同発電所をつくらうという声があがり、約100名の賛同者を得て、2013年6月、同教会の信徒会館の屋根に10kWの「カリタス下北沢ソーラー市民協同発電所」を設置した。

共同代表の山木きょう子さんと浅輪剛博さんは語る。

「シンボルとしての意義は大きいの



「夏休み親子教室」では、子どもたちが表面温度計でアスファルトと芝生の温度などを測った



第1回「エネルギーシフト未来工房」ではよしず、すだれ、遮熱シート、UVカットシートを使い、遮熱効果を実験

「エネルギーシフト未来工房」の会場入口の看板。次の世代にどんな社会を引き継ぎたいか。その答えを私たち一人ひとりが創っていききたいという思いが込められている



助成団体レポート 行ってみました! 省エネワークショップ

ですが、実際は3軒分の電気をまかなうことしかできません。エネルギーの大消費地である東京で持続可能な地域づくりを目指すには、太陽光発電だけでなく、太陽熱や地中熱、雨水などの利用や緑の保全、コシエネ化、省エネなど、総合的な視点でエネルギーの効率的な利用を進めていく必要があると感じています



東京都・小金井市にあるエクスルギーハウスへの見学ツアー。建築家の黒岩哲彦さんのレクチャーは世田谷教会でも行った

より多くの市民に省エネの輪を広げたい

これから課題は、いかに多くの市民を巻き込んでいくか。そのためにも誰もが気軽に参加できる生活に密着した企画や、親子向けのエネルギー教室、行政と協働した研修やイベン

トなどを計画中だ。また、世田谷市民発電所2号機の出資者も募集中。「先進事例の見学やワークショップなどの活動を通じて蓄積した知見をもとに、地域の「快適エネルギー」コンシエルジュの役割を果たしていきたいですね」

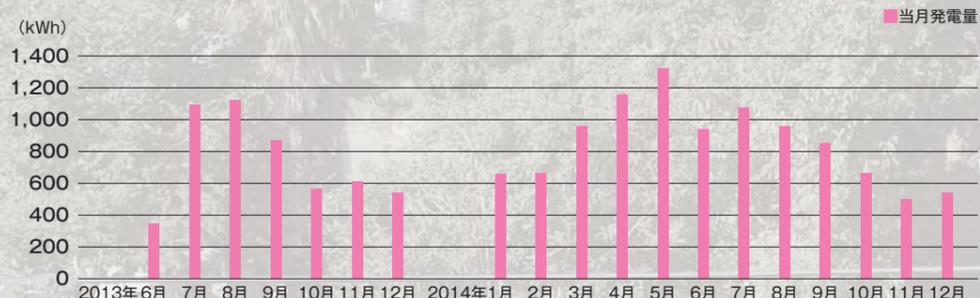
2013年6月、東京・下北沢のカトリック世田谷教会に市民出資 によるソーラー市民協同発電所が設置され、発電を開始した。多くの市民の参加を得てエネルギーの地産地消を進めるとともに、エネルギーの効率利用のノウハウを広げる活動を展開している。

地域からのエネルギーシフトを目指す

がまんの省エネから快 適なエネルギー生活へ

市民協同発電所 発電実績

設置した太陽光発電パネルは10.01kW。2013年6月18日から2014年6月17日までの1年間の発電量は11,595kWhで予想発電量9,000kWhを上回った





黒田武志さん

リネットジャングル株式会社 代表取締役社長

不要になった本やCDなどを無料宅配サービスで買い取る「ネットオフ」に自然環境保護や社会福祉分野への寄付を組み合わせた仕組みが「スマイル・エコ・プログラム」。2007年からの寄付累計額が5,500万円を突破し、地球環境基金を自然環境保護分野の寄付先の一つとしてご支援いただいています。「スマイル・エコ・プログラム」のアイデアが生まれた背景や今後の抱負など、創業者の黒田武志社長にお話を伺いました。



サポーターインタビュー
基金を支える方々

Heart & Heart
Takeshi Kuroda

スマイル・エコ・プログラムの流れ

企業活動に社会貢献を組み込んで 持続可能な「偉大な作品」を創りたい。

寄付集めに大変苦労していると伺ったのです。アメリカのNPOを見ると、マーケティングがしっかりしていて資金調達力も高い。日本のNPOも資金の調達方法を進化させる必要があると感じました。同時に、企業にも何かできることはないだろうかと考えて思いついたのが「ネットオフ」の買取サービスに寄付を組み合わせることでした。

片づけのついでに 気軽に寄付を

— 具体的に、どのような仕組みになっているのでしょうか。

黒田 ネットオフのサービスは中古品をお客様に売るだけでなく、仕入れとして年間約2000万冊の本を買い取っており、一般的な流通と違い、私たちがお客様にお金を支払う流れがあります。この流れをNPOの方に向けられないだろうかと考えました。そこで、お客様に買取金額をご提示する際に「ちょっといいことしませんか」と呼びかけることにしたのです。

— 「ネットオフ」利用者の10人に1人が寄付をしているそうですね。

黒田 買取サービスのニーズには換金だけでなく片づけの側面があります。引越しや大掃除で本を捨てるのは気が引けますが、ネットオフで次の人に渡るといえば思い切れるわけですね。そこで私たちは本の選り好み



黒田武志(くろだ たけし)
1965年大阪府生まれ。大学卒業後、トヨタ自動車(株)に入社。1998年、同社を退社しブックオフコーポレーション(株)の起業家支援制度を利用して起業。2000年、(株)イーブックオフ(現リネットジャングル)を設立し代表取締役社長に就任。宅配買取によるリユース、リサイクル事業を展開している。

せず、すべての本を買い取ることにし、「部屋を片づけたら」というお客様のニーズに応えることにしました。部屋が片づいた上に買取金としてお小遣いが入れば、寄付しようという気持ちになりやすいでしょう。

また、お客様の関心は途上国の子どもの支援から環境問題まで多種多様なので、できるだけ多くのお客様を巻き込むために、いくつかの活動テーマから寄付先のNPO・企業等を選べるようにしました。自分でテーマを選ぶことで、改めて問題意識を持つていただくことにもつながります。

本業を頑張れば 社会貢献できる仕組み

— 「スマイル・エコ・プログラム」は、本業と社会貢献とが無理なく結び付いた効果的な仕組みですね。

黒田 私たちの企業理念は、「ビジネス

スを通じて偉大な作品を創る」というものです。偉大な作品とは「収益性と社会性を両立したビジネスの仕組み」のこと。大企業でなくとも、本業に社会貢献活動の要素を組み込めば、本業を頑張ることで無理なく企業の収益と社会性を両立できます。

現在、JICAともカンボジアで「偉大な作品」を創作中です。日本に眠っている古い農機具をカンボジアで循環させていくビジネスで、私たちは中古農機具のレンタル・保守整備で事業収益を得ます。一方で、JICAなどの力を借りて職業訓練校を作り、農業支援や人材育成を行う。この結果、途上国の方たちが自立できれば、農機具のビジネスも大きくなるというわけです。

— さらにいろいろな作品が生まれれば素晴らしいですね。

黒田 2014年はネットオフで培

資金難のNPOに 企業は何ができるか
— 「スマイル・エコ・プログラム」の寄付総額が5500万円を突破したそうですが、このアイデアはどこから生まれたのですか？

黒田 当社の創業は2000年、まさにネットバブル全盛の時代でした。私たちが新しいネットベンチャーとして上場を目指して頑張っていたわけです。しかし、上場したベンチャーの華やかな話題を聞くにつけ、企業活動にはもっと社会的な存在価値があるはずだと思っていました。そんなときNPOの方々とお話をする機会があり、

宅配買取のノウハウを生かし、小型家電の回収を始めました。日本は資源がないと言われますが、都市にある家電製品に含まれる資源を回収できれば世界有数の資源大国になる。

この小型家電のビジネスにも社会貢献的な要素を加えたいと考え、具体的に動き始めています。実は400種類近くもある小型家電の分別作業は知的障がい者の雇用に向いているんです。自分で言うのもおこがましいですが、肩肘を張らなくても少し工夫するだけで、いろいろな作品を生み出すことができます。そして、こうした仕組みをつくっておけば、いざれ私が入社しても、ガウディの建築のように、終わることなく社会貢献を続けられるのです。

— 最後に、地球環境基金にメッセージがありましたらお聞かせください。

黒田 地球環境基金の幅広い活動は自然環境保護への共感を輪を大きく広げていると思います。私たちにとてもエゴジカルな活動は最も力を入れていきたい分野ですから、地球環境基金を通してさまざまな団体の活動を知ることは大変勉強になりますし、本業に取り入れる仕組みのアイデアも湧いてきます。今後、さまざまな新しい取り組みについても一緒に取り組んでいきたいですね。

1 お客様から買取りの申込み



便で無料で引取り

2 ネットオフに到着



在庫数100万点以上の品ぞろえを誇る商品センター



届いた商品は1点ずついいねにチェック。買取金額を査定する

3 お客様の買取金額をお知らせ、あわせて寄付コースをご紹介します

- 1 森林の保護コース
- 2 東日本大震災復興支援・日本赤十字コース
- 3 自然環境保護コース 寄付先/地球環境基金ほか

4 選べる6つの寄付コース

- 4 女性の健康と自立支援コース
- 5 途上国の支援コース
- 6 身障者の支援コース

5 お客様が買取代金の中から寄付先と寄付額を任意で指定

6 ネットオフからも宅配買取の成約1件ごとに、10円〜50円を6つの寄付コースの社会貢献団体に寄付

未来の環境保全活動を担う人材を育てる 若手プロジェクトリーダーの 育成支援プログラム

地球環境基金は、環境保全活動に取り組むNGO・NPOの発展を支援するため、さまざまな事業を行っています。
平成26年度から始まった「若手プロジェクトリーダーの育成支援」もその一つ。審査で選ばれた若手スタッフに対して、3年間の研修と活動推進費の支援を行い、NPO活動を持続的に推進するために必要な戦略を構築し、実践できる人材を育てていきます。

3年間の支援で実践力を磨く

この20年で環境NPOの数は飛躍的に増えましたが、長年その活動を担ってきたスタッフが高齢化しており、環境保全活動を継続・発展していくためにも若手リーダーの育成が急務となっています。そこでこのほどスタートしたのが「若手プロジェクトリーダーの育成支援」です。活動戦略の立案から広報戦略、資金調達、協働、合意形成まで、3年間9回の研修で技能を高め、現場での実践力を磨いていきます。さらに活動に専念してもらうため、年間上限300万円の活動推進費(賃金)も支給します。
初年度となる平成26年は「計画立案に関する体系的な理解、リーダーシップの獲得」をテーマに、成果を生み出す戦略とプログラムづくりを学びます。2回目と



「物事を動かすためにリーダーは何をすべき?」。課題を各自がリストアップ

なる10月は「自らのリーダー像の発見とプロジェクトを遂行するリーダーシップ」がテーマ。1泊2日の研修に16名の若手プロジェクトリーダーが参加しました。

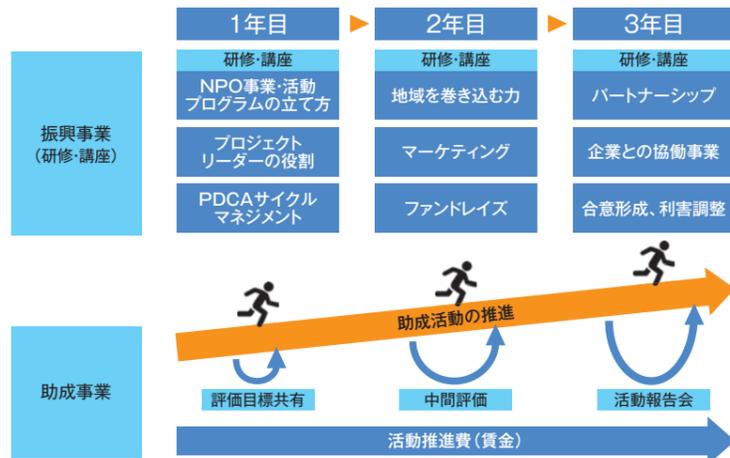


その場で出た気づきや思いは言葉にして貼り出し、共有していく

講師との対話で気づきを得る

1日目の研修は、ファシリテーターに明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授の長畑誠氏を迎えてスタート。午前中は4人1組でグループを作り「リーダーシップが必要とされるのはいつ? 誰に対して? 何のために? その時の課題は?」とリーダー像に対する疑問や課題を整理しました。午後は、NPO、スポーツ、政治、企業と各分野で活躍する4人の講師の方からのレクチャーと、各グループ30分ずつの講師との個別セッションです。異なる

支援プログラム・3年間の全体設計



- 1日目
講師陣 (集合写真前列左から2番目より順に)
●国際協力NGO ACE代表 岩附由香氏
●(株)トッパ代表取締役 廣中龍蔵氏
●東京都多摩市議会議員 岩永ひさか氏
●(株)川崎フロンターレ 伊藤宏樹氏



トップに立ち人をまとめた具体的な経験談には課題解決のヒントが満載

視点からのリアリティ溢れるアドバイスに、参加者は多くの気づきを得たようです。

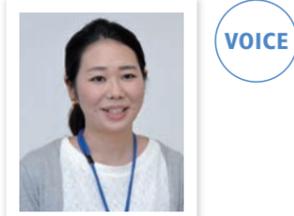
最後に「この支援プログラムの成果は皆さんのこれからの活躍にかかっている(岩附氏)」、「リーダーシップのスタイルは一つではない(廣中氏)」、「人とつながるには自分の弱さをさらけ出すこと(岩永氏)」といった言葉をいただいて長い1日が終了。翌日のグループ・コンサルティングで、この日の気づきをしっかりと自分のものにしました。



今回の研修での一人ひとりの気づきをリストアップ。今後に生かしてほしいと長畑氏



VOICE
■(特非)環境ネットやまがた 山田幸司さん
地元のリーダーの育成が大きな課題。若者の柔軟性を活かしつつ、組織を築いてきた第一世代とも意見を交わして実践できる場づくりに、研修を役立てたいと考えています。



VOICE
■(特非)nature center risen 宮川皓子さん
20年後には300人の若手リーダーのネットワークが築かれるという理事長のお話がありました。第一期生としてスタートに立った同期たちと共に頑張っていきたいです。

「聞く耳」をもって話し合える 関係づくりを

株式会社 川崎フロンターレ サッカー事業部プロモーション部
2005年~2009年 2012年 川崎フロンターレ 元チームキャプテン 伊藤宏樹さん

チームの中でも日々衝突は起きます。それをまとめるには「聞く耳」を持つこと。自分の意志も大事ですが、人の意見を聞いて同じ方向を向いて話ができるよう努めてきました。そして、オフには仲間と羽目を外してバカをやる。日ごろから互いに話し合える関係をつくり、自分一人の問題を抱え込まないこともリーダーとして大切だと思います。



地球環境基金のサポーター

地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成26年7月から12月末までにご寄付・ご支援くださった方々は下記のリストのとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

平成26年7月から12月末日現在までに476件、総額**2,398,860円**のご支援をいただきました。ありがとうございました。

個人

伊藤孝司
今川捷子
岩見美沙
浦田俊一
大槻 博
大庭一夫
岡野香代子
岡野義幸
岡本 昇
奥井美由紀
小田龍太郎
川崎久美子
儀間美沙子
草薙智紀
組谷雅一
櫻井啓之
佐藤元基
篠崎則子
嶋元 誠
菅野享子
杉本光史
スズキミコ
鈴木康夫
田中昌子
曾根秀一
タイラマキコ
宅間保隆
武内洋司
武田麻里
田坂英樹
田中健三
田中俊多
田中葉 昇
塚越剛子
手嶋大記
中塚清士
中野明子
長野圭子
中野安則
中村 亨
新津真紀子
西久保裕彦
沼野伸生
野田好和
波田野統之
原田広巳
福田昌代
福留 梓
堀切澄江
本田 聡
本間紀夫
團井 悟
道達直也
湊 亮策
安井悦子
横川拓郎
吉田裕史
吉田 実
吉田 寧

東京ベイ信用金庫 夢定期eco

アクトセツコ
アサオミユキ
アベスミイ
アラヨリコ
イシイタカヨ
イシイヤスオ
イシカワヒロシ
イシザカシユイチ
イシヤマシユウコ
イシヤマヒロコ
イノウエヨシジロウ
ウキヤノリコ
ウダガワタケアキ
宇田川眞明
エグチカズユキ
エンドウイコ
オйкаワミキオ
オオタニスム
カカシタケユキ
カワシマサチコ
キタムラコウキ
キョウタツオ
コクフカズミ
コジマトモコ
コヤマシスコ
コンドウヨシアキ
サイトウアキコ
坂場みち子
サカモトカツヒロ
ササキシロウ
サトウカズユキ
サトウミコ
シノザキノリコ
シマムラカヨコ
シンカワマサシ
スズキチヨ
スズキヒデオ
スズキマルミ
セキネシノブ
ダイドウジシズコ
タカシマヨシジ
タカハシキヨコ
タカハシマサノスケ
タナカカズエ
タナカミコ
タノウエフミコ
チバユウジ
東郷晴代
ナガオヨシコ

ナガラヨシノリ
ナゴヤスコ
根本すみ
ネトマサミチ
ネトミスズ
ハヤシジュンコ
ハラヤマチコ
ハルハラヤスヒコ
ヒラバヤシエコ
フジタヒロユキ
ホンジョウケンイチ
松尾光高
マツザワセツコ
マツマルコウセイ
ミカハラチエコ

ヤナギノリオ
ヤノカスコ
ヤマガタジュンジ
ヤマカタモコ
ヤマモトシゲコ
ユアサセイイチ
ヨウメイアキコ
ヨウメイケンジ
ヨウメイケン
ヨシハラヒデノリ
ヨネタエミ
ワカバヤシカズエ
ワタナベコウキチ

雲南市役所 木次総合センター 総合調整課
大洲市役所 河辺支所
大津市役所 環境部 環境政策課
大牟田市役所 環境生活部 環境政策課
貝塚市役所 環境生活部 環境政策課
笠間市役所 岩間支所 地域課
加須市役所 騎西総合支所 環境経済課
上富田町役場 住民生活課
上富良野町役場 生活環境課
川南町役場 環境対策課
神埼市役所 市民福祉部 生活環境推進室
北秋田市役所 森吉庁舎 森吉総合窓口センター
北見市役所 端野総合支所 市民環境課
小平市ごみ減量推進実行委員会
滋賀県湖北環境事務所
色麻町役場 町民税務課
志木市役所 市民生活部 環境推進課
四條畷市役所 都市整備部 生活環境課
白鷹町役場 総務 政策課
新上五島町役場 有川支所 市民課
大仙市役所 神岡総合支所 市民課
高砂市役所 生活環境部 環境政策課
武雄市役所 まちづくり部 環境課
玉川村役場 住民課
津市役所 環境部 環境政策課
東温市役所 市民福祉部 市民環境課
長崎市役所 市民局環境部 環境政策課
中札内村役場 総務課
那須塩原市役所 生活環境部 環境管理課
西原村役場 住民課
浜中町役場 町民課
富士市役所
豊後大野市役所 大野支所 総務市民課
別府市役所 生活環境部 環境課
益子町役場 住民課 環境衛生係
三種町役場 山本総合支所
みなかみ町役場 生活環境課
南足柄市役所 環境課
八頭町役場 船岡支所 住民課

企業

株式会社アクセル
イーハートナース株式会社
有限会社インターリンク
株式会社内田洋行 九州支店
株式会社エースランドリー
株式会社学研教育出版 藤巻 寛太
株式会社カワサキ電通
有限会社倉田商店 代表取締役 倉田保治
車屋 ボルテックス
株式会社クレディセゾン
五島冷熱株式会社
株式会社ジェイアール西日本 デイリーサービスネット
株式会社ジェフグルメカード
株式会社ジャパン・エモーション
株式会社ジャパングリエイト
有限会社第一環境
株式会社橋フィナンシャルグループ
中央電力株式会社
東光電機工業株式会社
株式会社トーカイ
日本リライアンス株式会社
能勢電鉄株式会社
ファミリーマート 八王子甲街道店
ファミリーマート 美濃上条店
ブックオフコーポレーション株式会社
三井住友カード株式会社 東京法人営業部
三菱UFJニコス株式会社
有限会社モンパ
リネットジャパングループ株式会社

国・地方公共団体

阿賀野市 京ヶ瀬支所 市民生活課
鯉ヶ沢町役場 町民生活課
安平町役場 住民生活課
綾川町役場 綾上支所
綾瀬市役所 環境政策課
石巻市役所 生活環境部 環境課
田舎館村役場 厚生課
射水市役所 大島庁舎 環境課
射水市役所 小杉庁舎 町民生活課
若山市役所 環境保全課
岩沼市役所 市民経済部 生活環境課
岩見沢市役所 環境部 環境保全課

その他

エコロジーマーケット実行委員会
河田菓子舗
一般社団法人環境パートナーシップ会議(EPC)
「湿地の恵み展」ラムサール条約湿地の観光と物産実行委員会
一般社団法人全国燃料協会
タガース
流山工業団地協同組合
日本原子力開発機構 人形峠環境技術センター
一般社団法人日本生花通信配達協会
日本大学高等学校・中学校
平成26年度永年勤続表彰者
社会福祉法人ゆあみ会
雪ん娘
リサイクル汽車ポッポ
(五十音順・敬称略)

*このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体等の区別につきましても必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合がございますので、ご了承ください。

「地球環境基金便り38号」 読者アンケートにご協力ください

アンケートは、このページのアンケートはがき、およびホームページ「地球環境基金の情報館」のアンケートページ (<https://www.erca.go.jp/jfge/info/publicity/tayori/form/38.php>) において受け付けております。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

Present

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に、地球環境基金オリジナル・エコバッグをプレゼント(応募締切:平成27年8月末)。当選者の発表は、地球環境基金のホームページで行う予定です。



「ご寄付口座のご案内」 「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。お振込みの手数料は無料です。

銀行名/支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行/本店	普通預金 0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三井住友銀行/東京公務部	普通預金 3013615	
三菱東京UFJ銀行/本店	普通預金 7637448	
みずほ銀行/本店	普通預金 2413416	
りそな銀行/赤坂支店	普通預金 1023850	

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。
①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
②ゆうちょ銀行以外の銀行からお振込みいただく場合には、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金本部基金管理課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。
※その他にも、クレジットカードを利用したご寄付や、楽天銀行を利用したご寄付が可能です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
地球環境基金の情報館 <http://www.erca.go.jp/jfge/>